

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 塔野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

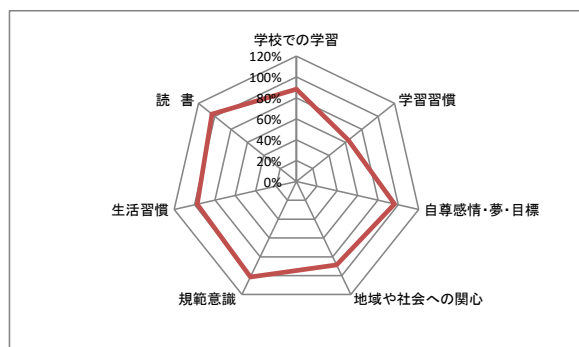
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域においては良好な正答率であった。 問題形式において、選択式・短答式では、良好な正答率であった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題(選択式) ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題(選択式)	上回っている
	努力が必要な問題	・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題(記述式) ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題(記述式)	
算数	全体的な傾向や特徴など	・「図形」の領域において、やや低い正答率であった。 ・問題形式に関わらず、全般的にやや低い正答率であった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・棒グラフから、数量を読み取る問題(選択式)	下回っている
	努力が必要な問題	・帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴を持った項目とその割合を記述する問題(記述式)	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「読書習慣」(1時間以上読書をしている)・基本的な「生活習慣」(早寝・早起き・朝ごはん)・「規範意識」(いじめ)については、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。 ○「自分にはよいところがある」の自尊感情においては、肯定的な回答の割合が全国平均とほぼ同等であった。 ▼「学習習慣」においては、授業以外に家庭で学習している(1時間以上)児童の割合が全国平均を大きく下回っている。家庭での学習習慣づくりが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・考えを持ち寄って話し合い、考えを広げたり深めたりする授業づくりに取り組む。併せて「がんばりタイム」を継続的にを行い、基礎的基本的な内容の定着を図る。
- ・国語科において、文章から書き手の意図や主張を読み取る活動、それをまとめて書く活動を重視する。
- ・算数科において、データを比較し、その相違の特徴や理由を説明(話す、書く等)する活動を重視する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習や生活習慣の大切さについて、学校だよりやほけんだより、学校HP・PTA活動等を通じて知らせる。
- ・保健学習や学級活動で自分の生活習慣を振り返り、自分なりのめあてを決めて実践させる等の改善に向けた取組を行う。